

■令和5年度第3回高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日時：令和5年10月26日（木） 18：30～

場所：会津美里町役場 2階 大会議室

出席者：11名／18名

事務局：7名

1 開 会

開会（副委員長）

第3回目のまちなか賑わい創出協議会になる。

今回もグループワークと言うことで、色々な意見をたくさん出していただければ。

2 委員長あいさつ

挨拶（委員長）

本日の協議事項についてはご案内の通り。ご協力よろしくお願いします。

3 前回の振り返りと本日の流れ

（事務局より資料により説明）

説明（事務局）

- ・1回目のアンケート終了後、住民の皆さんの意見を広く聞くため、ワークショップを2回開催した。参加者は1回目12名、2回目4名。
住民の皆さんの声を聞き切れていない、世代も偏っている。
もっと積極的に情報を集めることが必要と思っている。
11月下旬に会津西陵高校生へアンケートを実施予定。
- ・学識経験者として本会の委員を務めていただいている会津短期大学の先生に、ゼミ生を連れてまちなかを歩いていただいた。
歩いたのは10月中旬の火曜日、午前10時から午前11時まで。
場所は会津高田駅から高田インフォメーションセンターまで。
想定する状況としては、自分は会津美里町外の出身で、会津美里町内の学校に通学するために駅から歩いたらどう思うかを考えながら歩いていただいた。学生の感想は次のとおり。
 - ・駅の付近が寂しい
 - ・観光マップや伊佐須美神社の看板が古臭い
 - ・歩道が狭い
 - ・若者が進んで行けるお店が少ない
 - ・若松にないも

のがない ・お店がやっているのか閉店しているのかわかりづらい
・悪い意味で町全体が老朽化している ・空家が放置されて危険な場所があった ・個々の店には駐車場があるので行けるが、全体を歩くときは駐車場をどこにするかという攻略法を見つけなければならない
・平日に若者がいるのは珍しいと声をかけられた ・学校帰りにどこかへ寄って時間をつぶそうかという時に、昔のように駄菓子屋、神社で遊ぼうというのは今はないかもと感じられた ・生徒は駅前で30分～1時間待っているのかも

2 班のグループワーク

(事務局より資料により説明)

説明 (アドバイザー)

- ・混乱を整理した方がいい
- ・賑わいとは何かというところから始まった
- ・公民館の跡地の利活用を考えるのか、町全体の賑わいを考えるのかを分けて考えた方がいい
- ・モノ (公民館跡地の活用) ・コト (賑わいを作るためのこと) を分けて考えた方がいい
- ・地域住民のための賑わいか、他所の方のための賑わいか (内向き、外向き)

説明 (事務局)

2回のワークショップ、前回第2回協議会のグループワークでもそうだが、「人と人の交流」が賑わいの鍵。その人の流れを、具体的にどう作っていくか？それを話し合ってください、これから実施する第2回のアンケートの設問に反映していきたい。

中心市街地に人の流れをつくりだすためには、何が必要か？その強力な推進力として、旧高田公民館跡地をどのように活用していけばいいか？という課題をA、Bの二班に分かれ、まずは個人ワーク、その後グループワークで話し合っ、班ごとに発表していただきたい。

4 協議事項

① グループワーク

- A にぎわいづくりの方針を2～3つ (ワークシートを作成)
 - B 方針を実現のために空き家を含め、商店街をどう利活用していくか？
 - C その強力な推進力として、旧高田公民館をどう利利用していくか？
- (A、Bの二班に分かれ、個人ワーク後、グループワークで協議)

② 各班の発表

〈A班〉

- ・昔、商店街には色々な店があった。
都市部よりも厳しくなくチャレンジしやすい、幅広い店を受け入れていた文化がある。
→新たに流れを作るより、今ある流れや今あるところで、お金をかけずにできる方法は？
＝空き商店をチャレンジショップやレンタルスペースに活用
(店舗を持たない人が店を出せるように整備)
- 商店街が住宅化して行く中で、余りに賑わいすぎると疲弊する
＝「話題の店の本店」という形で誘致
(人気商品の本店が美里にある＝それほど多くの人は来ないが、マニアックな人、思い入れの強い人が来る)
＝迷惑にならない賑わいがありながらも、経営としては成り立つような仕組みを持つ人、特徴のある商品、将来性のある若い方の店を誘致
- ・居場所がない中で、小中高の子どもたちが勝手に集っている現状がある。
→この先 15～20 年を考えた時、今ある流れの中で、子どもたちが雨風をしのげる場所(子どもが来ると親もついて来る)
＝受け皿となる場所(フリースペース、勉強する・ゲームができる・ゲームをするだけでなく作る側としての職業経験ができる・職業体験をシェアできる学びのサードプレイス)
- ・ターゲット：新しくチャレンジする人、学生
- ・キャッチフレーズ：挑戦しやすい場所、使い勝手のいい街

〈B班〉

- ・メイン：商店街
- ・内向きの仕組み
→商店街の色々なお店が無くなっていく中で、商品を一括してデジタル化できないか？
＝学校のジャージなど、美里町内でしか買えないものを家まで届けてくれる仕組み(バーチャル商店街(美里版 AMAZON、じいばあイーツ))
- 商店街を歩くことで、健康になれて魅力にも気が付くのでは？
＝歩いて健康になれる仕組み(ウォーカブルな商店街)
- ・外向きの仕組み
→場所、スペースの必要性
＝学生などを呼び込む仕組み(子供たちの集まれる場所)
- 商店街の店に買い物に行くにはどこかに車を停めなければならないが、

交通規制が厳しい現状がある。

＝交通規制を変えて道路に車を止められる仕組み（フランスやイタリアのように路上にずらっと車を停車できるように）

→伊佐須美神社までは人が来ている現状がある。

＝歩いて商店街まで呼び込む仕組み（門前横丁にある俳句の更新）

・内向き、外向き両者の仕組み

→飲食店

＝美味しい物を作れば内側の人も楽しめて、外側の人も遠くからでも来てくれるので外貨も稼げる

・先進事例：栃木県えんがお＝空家を8つ借り上げて時間と人で仕分けするコミュニティスペースへ

・キャッチフレーズ：新しい商店街、楽しい商店街、人にとって元気がもらえる商店街、自然と調和した商店街、みんながプレイヤーになる街、全部を我がことで進めて行く街

③ 委員長のまとめ

色々な意見を参考にさらに次へ深め、アンケートの検討や施策の方向性を示すところまで検討することになると思うので、よろしくお願いします。

5 その他

意見（アドバイザー）

- ・商売はお金を稼がなければならないし、事業承継など、これから賑わいを作るのに色々大変なことがある。
- ・商業的視点・福祉的視点どちらも必要。
- ・伊佐須美神社、あやめ、水、緑など、会津美里の自慢を拾ってあらためて再認識していただけるような話だった。
- ・市町村要覧：自治体のカタログ、各市町村の自慢の一冊
美里の町の形成、先人の知恵が何をもたらしたのかを振り返り、新しい町の賑わいの作り方を検討してほしい。

説明（事務局）

今回は12月7日（木）18時30分より、会津美里町役場2階大会議室で開催予定。

6 閉 会